

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2571200225
法人名	医療法人社団 眞下胃腸科医院
事業所名	グループホーム 大宝の郷
訪問調査日	平成 20 年 9 月 12 日
評価確定日	平成 20 年 10 月 5 日
評価機関名	ナルク滋賀福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2571200225
法人名	医療法人社団 眞下胃腸科医院
事業所名	グループホーム 大宝の郷
所在地	〒520-3031 滋賀県栗東市糺8丁目17-54 (電話)077-554-7557

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店 2F		
訪問調査日	平成 20年 9月 12日	評価確定日	平成 20年 10月 5日

【情報提供票より】(平成 20年 8月 28日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17年 7月 17日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 13 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	15 人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (150,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	600 円
	夕食	600 円	おやつ	100 円
	または1日当たり — 円			

(4)利用者の概要(8月 28日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	7 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.2 歳	最低	65 歳	最高	99 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	社会福祉法人 恩賜財団 済生会滋賀県病院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームはJR栗東駅のすぐ近くにあり、交通アクセスは良好、しかもすぐ近くに大きな神社等もあり、散歩には好環境である。建物は鉄筋コンクリート2階建てで1階と2階に17名が暮らしている。近くに経営母体である医院があり、月2回の往診を受けることができ、医療面でも安心できる。毎日の生活の基本は食事であると認識し、3食とも手作りで、献立、買い物、調理、食事まで利用者と職員が一体となり、ほんとうの家族のような感じである。ホームの利用者が入居前より元気になった、要介護のレベルが重度から軽度になった、などの事例もある。設立3年目であるが、ホームの夏祭りが地域住民の支援を得て盛大に行われた。この点からも地域密着型ホームとして年々着実に前進している姿を見ることが出来る。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では、職員の個人別育成計画の作成と実施の提案があったが、今回は見直し改善された。同じく利用者の避難訓練についても、消防署指導のもと実施した。さらに、重度化や終末期に向けた家族との方針の共有についても、新しい入居者から先ず行なった。順次従来からの入居者に対しても対応し、文書化による確認・説明・同意の押印を確実に実践してほしい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員各自が、自己評価票に基づき日頃のサービスを検討した。管理者はそれらを総括し、それを基に職員会議で討議して取り組み課題と優先順位を含む具体的な行動計画を作成し、サービスの改善に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、2ヶ月に1回開催している。会議のメンバーは、地域代表3名、家族代表3名、ホーム5名、老人クラブ会長、自治会長他、合計15名で構成されている。議題は、現状報告や夏祭りなどの行事の支援要請などである。会議を活かした取り組みとしては、自治会との連携、行事の支援、各種ボランティアの受け入れ等がある。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>年1回家族会を開催し、家族アンケートの実施により利用者家族の意見・要望を汲み取っている。家族に対しては、月1回程度の来訪時に、日常生活や体調の情報等詳しく報告すると共に、月1度のホーム新聞の発行送付により、家族の不安を取り除く努力を行っている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームは、地域の清掃活動や自治会行事に積極的に参加している。ホーム内にふれあい喫茶を設けることにより、地域の人が気軽にホームに来所するようになった。また小学生や民生委員の見学を受入れるなど、地域社会に認知される努力をしている。ホームの夏祭りには地域住民の方の多大な支援を得られるようになり、地域に溶け込んだホームの姿が窺える。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の人々とのふれ合いを大切に、「地域に開かれた福祉の場を目指す」ことを当ホームの理念として謳うとともに、この地域密着理念の実践に全職員が一丸となり日々取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に理念を張り出し、家族や来訪者にも理解してもらえるようにしている。職員は名札に理念を記したものを入れ、日常確認に努めている。今回グループ全体の新しいインプレットが完成し、グループ及びホームの理念が対外に更に広く発信されるようになった。		情報提供票・運営規定・契約書・重要事項説明書等の文書にも理念を明確に表示し、より一層関係者の理解を得る事に努めてほしい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	缶拾いや駅前の清掃等、積極的な自治会活動をベースにして、地元の老人クラブ・幼稚園・小学校・農協等交流の輪を広げている。この事例として109名の多数の参加者で賑わった今年の夏祭りが挙げられる。まるで地域の行事のように、ほとんど地元住民の手で準備・運営され、大盛況の行事となった。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員が行い、月1度の職員会議で検討し、理事長も出席する2ヶ月に一度の合同会議で改善策を決定する。外部評価も同様の経過を経る。外部評価を活かした具体的な改善例は、職員の個人別研修計画や、利用者の重度化や終末期の方針の共有化、また避難訓練の実施等がある。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に一度、15名の委員により開催し、活動報告、行事予定と支援、意見・情報交換を行っている。特に自治会長や地域住民代表(3名)等地域の委員を多く入れることにより、地域と一体化した運営姿勢を打ち出している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、市の長寿福祉課の窓口へ認定申請で月1回は訪問する。窓口課長は運営推進会議のメンバーでもあり、なんでも相談できる関係をつくっている。市と連携して、学区外の民生委員の見学・研修受入れや、小学校の見学受け入れ等も積極的に行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回程度は利用者の家族の来訪があり、この機会に日常の生活状況等を報告している。月1回のホーム新聞は、毎月の請求書や金銭出納帳の報告とともに郵送する。また訪問頻度の低い家族へは、近況の手紙を毎月出すことにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回利用者の家族会議を開催し、家族アンケートを実施、家族からの意見を職員会議でも検討している。近隣市町村にも苦情相談窓口を設置したり、ホームの玄関にご意見箱を設け、意見を汲み取る取り組みをしている。重要事項説明書には内外の苦情相談窓口を明記している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職等による異動は、10日間の引継ぎ期間を設定している。職員は半年毎にホーム内での持ち場を交代するが、基本的にすべてチームで行うので、利用者へのダメージは少ない。ユニットごとにチームメンバーの顔写真と名前を、玄関及びフロアー入口に常時掲示し、利用者及び家族にも知らせている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個人別育成計画を作成し、各人の段階に応じた研修を受講させている。又、ホームのニーズに応じた研修も随時実施する。外部研修の受講費用は事業所の負担とし、研修の時間は業務扱いとするなどの優遇措置をとっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	淡海グループホーム協議会に加入し、管理者会議・研修会・交流会(職員参加)等の定例の活動以外にも、施設間の気兼ねない電話や、相互訪問などによって意見を交わし、さらなるサービスの向上に結び付けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に管理者が必ず利用者の自宅を訪問し、本人の生活実態や、ホームに持ち込むなじみの家具等を確認する。利用者に職員や施設環境などの雰囲気慣れてもらうため、ホーム見学会を実施している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から職員が教えられる事も多々あり、特におせち料理・糠漬け・寿司・おはぎ等の伝統的な料理は完全に先生と生徒の関係に変わる。また日常的には料理の味見等、利用者からアドバイスを受けるなど微笑ましい支えあいの姿が見られる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で交わす会話から本人の希望や意向を汲み取るようにしている。利用者みんなが一緒にやっていることでも本人が、その気にならない時は無理強いない。会いたい人、話したい人がいる場合は家族の支援を得て、本人の希望を叶えるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ホームの計画作成担当者は、入居前に本人の自宅を訪問し、生活環境、生活歴等を確認するとともに、計画作成にあたっては、本人と家族の希望を聞き取り、ケアカンファレンスを行い、個々のペースに合わせた介護計画をまとめ上げている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ホームは3ヶ月に一度、介護計画を見直している。介護計画の遂行状況、効果などを見ながら職員が記録する利用者の状態変化や家族・本人の要望に応じて期間が終了する前に見直し、急な状態変化がある場合は都度話し合いの上、計画修正している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして利用者にとって負担となる日常の受診は月2回の往診により軽減している。又、看護師との24時間連絡体制を確保するとともに、疾病等によっては他の病院や専門医への通院・送迎を事業所が支援し医療面で安心できる体制を作っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームは、本人及び家族の同意の下、入居前からのかかりつけ医から診療情報提供票を受領し、ホームと同じグループの医院に変更する。利用者は、この医院より毎月2回の往診を受けている。疾病によっては職員の付き添いのもと、他の医療機関で受診する。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームは、共同生活困難が退所条件として運営していたが、昨年入居者からターミナルケアを実践する方針に変更し、重度化や終末期に対する対応方針を定めた。入居前に家族・医師・看護師を交えて、これらのあり方について話し合い、方針を共有する努力をしている。	○	新しい方向へのスタートを切ったばかりで、始めから完璧は無理であっても着実に一步一步前進させて欲しい。当面、全職員への教育と方針の徹底、また契約書や情報提供票等書類の明文化と、同意文書の確認押印を確実に実践するとともに、緊急時の医者・看護師との連携体制の一層の強化等に取り組んで欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホームでは、個人情報施錠した場所で管理している。利用者全員の居室は、個室で施錠も可能であり、日常生活でのプライバシーは確保されている。その人の誇りやプライバシーに配慮した言葉づかいや態度等は当然であるが、それ以上になんでも気さくに話せる信頼関係づくりに取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お茶会・詩吟のように全員参加の行事もあれば、短歌や生け花・畑仕事等利用者個別の希望に沿って支援しているものもある。食事や入浴の時間は決めているが日常生活のパターンは基本的には、個々のペースに合わせて柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニット毎にキッチンがあり、朝・昼・晩の3食と毎日のおやつも各ユニット毎に手作りしている。献立はカラー写真の料理本を利用者に見せ、相談しながら決める。毎日の食材調達も調理、味付けも職員・利用者一緒に行く。食事も家族のように皆でテーブルを囲み利用者とのコミュニケーションの絶好の場としている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ホームでは、毎日昼も夜も入浴できるシステムをつくっている。本人の体調や希望を取り入れた柔軟な対応に努力しているが、一人ひとりの希望やタイミングには、対応できていない場合もある。		食事や入浴は毎日の生活の基本であり、この点を大切にしようとするホームの姿勢は立派である。今後とも継続的な改善を続けてほしい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理、掃除、洗濯、畑仕事、生け花等々、個々の得意なもので、利用者が役割が持てるように支援している。詩吟、お茶会、短歌など地元のボランティアの支援により楽しんでいる。		個別の楽しみや、気晴らしの支援をさらに強化してほしい。例えば囲碁好きな入居者がいるが囲碁の相手がいないので囲碁のボランティアを探してあげてほしい
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの外周はフェンスで囲われ、利用者はいつでも自由にホーム敷地内をぐりと散策できる。ホームでは、日常的な散歩や買物は一人ひとりのその日の希望に沿って外出支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵はかけず、センサーで感知して出入りを職員が確認している。利用者が外出しそうな様子を察知したら、声をかけ、さりげなく見守り、場合によっては一緒に同行する。居室の鍵は希望者には渡している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年からの課題であった避難訓練は、消防署指導のもと2月に実施した。ホーム内には火災報知機を設置して、その使い方についても職員全員が習得している。スプリンクラーの設置も検討している。	○	地域の避難訓練にも参加し、災害時には地域の支援が得られる関係作りをしてほしい。又利用者の避難マニュアルを作成し、全職員への徹底とともに、それに沿った避難訓練を実施してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は個別に記録し管理している。又、利用者の体調により、お粥やきざみ食を準備している。水分補給は、毎日のお茶を飲む各自の湯飲みの容量と回数をチェックして、一日に摂取した水分を計算し記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は 清掃・空調・換気等が行き届き、快適な環境にある。居間は広々としてゆとりがあり、窓も大きく、明るい空間設計となっている。畳のスペースも造られ、囲碁等も楽しめる。玄関には利用者による活け花や短歌が掲示され、季節感が味わえる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	およそ7畳の個室は、利用者のなじみの家具類や写真等の持込でそれまで過ごした環境と似た雰囲気になるよう工夫している。部屋の施錠は利用者の自由で希望者には鍵を渡している。必要な時はこの部屋で家族が泊まることもできる。		家具や写真、部屋の飾りつけ等においては、個々人によって差がある。さみしい感じの部屋は家族と相談し、支援してほしい。